



議会運営委員会副委員長
総務産業常任委員

立山秀喜

整備の推進である。進捗状況は南関東地区の高久野地区 13ha が今年度中に面工事が完了予定であり、本事業で 60ha の整備が完了する予定となっている。今後の計画は、地元への要望調査を行い 18 地区 111ha の基盤整備を進めているところである。昨年度相続調査を 3 地区行い、今年度が 1 地区が県の実施策定地区として採択されたところである。他の地区についても早期実施に向け地元や県と綿密に打ち合わせを行っていく計画である。

高久野の基盤整備工事



Q 現在の水田耕作面積はどれだけあるか。それに対し基盤整備率はどれくらいであるか。校区別にわかれば教えてほしい。

A (経済課長) 水田面積は 789ha で農用地区域で 600ha で 39% の圃場整備率である。(1 小校区 58%・2 小校区 32%・3 小校区 36%・4 小校区 36%)

Q 基盤整備計画から外れている迫田や便利の悪い狭い水田が 200ha ぐらいあると思うがどのような対策を行なうか。以前狭い圃場の対策を行っていたと思うが町としては対策を考えているか。

A (経済課長) 現在の事業では農地中間管理機構の事業が 5ha ということで、一番小さい規模で事業ができるのと負担もないという事業があります。

(副町長) 昭和 60 年ごろ、小規模圃場事業というのが、二人以上 20a 以上の町単独の補助事業がありました。

立山 「基盤整備の進捗状況と担い手の確保・育成はどうなっているか?」
**町長 「早期実施に向け県と綿密な打ち合わせ計画。
2市4町合同で新規就農相談会を開催している」**

Q 基盤整備の要望が 18 地区 111ha 出ているが進捗状況はどのようにになっているか。又その後の対策はどのように考えているか。

A (町長) 農地集積や担い手の確保、小作放棄地の防止など一番の課題は、基盤整備の推進である。進捗状況は南関東地区の高久野地区

(10a 当り 7 万円)

(町長) 農家の皆さんがそういった制度を活用してでも農地を守りたい、農業を続けたいということであれば、検討することは可能である。調査を含めて必要性を調べていく考え。



Q 今 39% の基盤整備ができている中で、集落営農の立ち上げが叫ばれているが、米田地区以外で、立ち上げの話は出ていないか。立ち上げるに当たり、色々会議を開いたり、先進地研修などの事業を行わなければならないが、町としては、支援なりを考えているか。

A (経済課長) 米田地区については、今年度中に法人化の予定で進んでいる。他の地区では、具体的には聞いていないが、今後重点的に進めていきたいと思う。今のところ町としては支援はないが、農業振興を進めていく上では検討する余地はあると思う。

(町長) 組織を立ち上げるための支援は国、県の補助は調べていないが、あれば活用するし、南関町の農業を守るために必要とあれば検討する。

Q 担い手の確保が必要となるがどのような状況になっているか。校区ごとにわかれば教えてほしい。新規就農者が 3 年で 10 名、今年が 6 名でどのようなものを栽培しているかわかれば教えてほしい。

A (経済課長) 全部で 83 名 (一校区 23 名・二校区 33 名・三校区 18 名・四校区 9 名) 新規就農者は、アスパラガス、なす、水稻、トマトなどと聞いている。

まとめ 基盤整備の問題が予定より遅れている部分がある。相続の問題が一番になると思う。地域と行政と対策を取り早急に解決を望む。又農地の集積がうまくいくように指導をやっていただきたい。基盤整備から外れた地区の対策を願う。担い手の確保と育成は南関町の農業に対して必要なことであり、指導できる人材の確保を願う。



北原 「高校跡地の一角に高齢者向け住宅を作るのが運動場の青写真と考えるが」

町長 「町全体を考えて高校跡地を宅地にとは、今、考えていない」



文教厚生常任副委員長
広報常任委員

北原浩一郎

Q 南関町に残る若者を増やすためには町内企業と連携したキャリア教育が大切になってくる。

A (教育長) 子供達が何のために学ぶのかなど、学びの動機付けの工夫を図っていく。南関三小で取り組まれた企業体験推進活動の実践を町内3つの小学校にも広げ、コミュニティスクールの取り組みの中で、子供達の町の誘致企業等への理解推進に向け、中学校の職場体験学習の充実も図っていく。

(町長) 以前実施していた企業訪問をすべての中学生を対象にぜひもう一回復活させていきたい。

Q 起業・雇用支援窓口は、起業に必要な知識、情報手法や農林業、地場産業、各企業の採用状況や募集情報、空き家、空き店舗の情報など、そこに行けば何でも情報が得られることが大切。また、今の町のホームページでは、南関町での求人定住の情報発信が弱い。

A (町長) 今年度南関版の求人情報をつくるよう指示を出した。南関に一番合ったものをこれから創り上げて町民の皆さん、町外の皆さんからも働きに来られるようなものを提示して行きたい。

Q 雇用支援及び町内企業の町民雇用の状況について。



A (まちづくり課長) 新規雇用奨励金の支払い実績より雇用者数は、平成27年度が、中途採用13人、新卒採用が3人の16人、平成28年度が中途採用が16人、新卒採用が8人、計24人、誘致企業17社含む町内企業の全企業45社の社員数が2,308人、町内在住の方がその内の543人。比率としては23.5%である。

まとめ 23.5%は少ないので、若者比率の減少を止め、将来の町を支える若者が残るには町内企業への就職率のアップが必要。そこにつながるキャリア教育の充実と子供達の学力アップ、町内企業との連携、窓口や町ホームページでの求人移住定住のサイトを充実が喫緊の課題。

Q コンパクトシティのいのちは、歩いて回れる範囲に公共施設や利便施設があること。人口密度を上げることにある。高校跡地は関町地区のど真ん中に突然現れた宝の場所。運動場の一角に高齢者向けの集合住宅など新しい住宅地を作ることが運動場の青写真と思うが。

A (町長) 県との協議(防災拠点として利用)もあるが、町全体を考えて高校跡地を宅地にとは、今考えていない。

Q 中心から離れたところにお住まいの方で、買い物難民になったり、随分と不自由になっている。家を手放して、中心部に住みたいと考える高齢者の方もこれから増えてくると考える。コンパクトシティを考える上で、未来の町をどう創造するかが大切と思うが。

A (町長) 現在は防災広場で進めている。既に国に対して防災予算、交付金を申請し動きはもう既に始まっているので、今すぐにそれを変更するのは、なかなか困難かと思う。

Q 私は防災広場が要らないと言っているわけではない。計画にある職員駐車場をうから館の駐車場にするなど運動場の利用法について、議論する場がこれからもあるかどうかを尋ねる。

A (町長) それは建設委員会の中で提案をしていただいて、皆さんそういった思いでされるならば、全体のスケジュールを変えることなく、そういったことでやってほしいなと思う。

(まちづくり課長) 建設委員会の予算については、今年度も取っているので、開催はする。

Q コンパクトシティとせきまち商店街の未来像について。庁舎移転と一体となった新しい商店街を構想し、創り上げるんだとの気概、意気込みが必要である。

A (町長) せきまち商店街とコンパクトシティを一体化して、まちづくりをやろうと考えている。組織をつくって協議して行く。

まとめ 目の前の壁を前にして、あきらめるのか、なんとか道を探すのか。その思い一つで未来は変わる。大切なのは未来の南関町の青写真にどこまでアクセスできるかと考える。



現在の高校跡運動場

総務産業常任副委員長
監査委員

打越潤一

と課題は。病院、診療所を受診するための交通手段は。健康づくりの推進がより強く求められている。その方策を尋ねる。

A（町長） 商工会でも商店主の高齢化や売り上げの低迷により閉店せざるを得ない状況に追い込まれているのが現状である。町としても空き店舗等活用助成事業に取り組んでいるが、町が動いて何とかなるということにはならないと考えている。



買い物弱者対策は待ったなしであり、商工会に補助金を出し、買い物宅配サービス事業に取り組んでいる。社会福祉協議会でももやい生活支援サービス事業を始める計画で進めている。

また、交通弱者の方が乗り合いタクシーを利用されているが、行き先として多いのがビッグオークである。今後も町の現状を把握し、買い物支援等も含め、住んでよかったと思っていただける町政運営に努めていく所存である。

次に、診療所及び歯科医院などの医療機関が安定的にその機能が維持継続されるように、しっかりと連携を図っていきたいと考えている。



サービスの充実を図っていく。

健康で元気に暮らすことは誰もが願っていることであり、生活習慣の改善など、予防と健康づくりへの意識向

打越「店舗の閉鎖、診療所の閉鎖の現状と課題は？」 町長「プロジェクト推進事業の中で、助成事業に取り組んでいる」

Q ① 町内の店舗数が減少し少子高齢化が進む中でよりよい対策はないものか、宅配サービスの利用者の状況は。乗り合いタクシー利用を進めるのか。

② 高齢者世帯が増加しつつある中、避けて通れないのが受診体制のあり方では。現状

上を家庭や地域、関係機関と連係して積極的に進めてまいりたい。

（まちづくり課長） 宅配サービスの利用者数の状況は、平成29年度実績で延べ280回の利用があっており、弁当配達が260回、食材配達が20回となっている。

Q 買い物弱者は、全国ベースというと、農林水産省が平成28年調べで、824万人。65歳以上の4人に1人、南関町に限ったことではなく、買い物弱者数がます

ます増えるし、買い物の不便さから外出の機会が減り、加工食品への依存が高まることで、健康に悪影響が及ぶことも懸念されると思うが。

（まちづくり課長） 給食サービスも栄養を考えた弁当の中で受けられているので、健康被害への対応はできていると思っている。

Q もやい生活支援サービスをしていくことだが、内容を尋ねたい。

（福祉課長） 介護制度の総合事業の中で、支援1、2の方に対して、買い物等の支援を、協力される方を募って、支援を求める方からの依頼を受けて登録された方が買い物等のサービス、支援を有料でされるというサービスが今年度から始まっている。今、募集をされている状況だと思う。

Q 緊急な場合は近くの診療所で受診される、また危ないときは、救急車に頼ってかかりつけの大きい病院に行くとか、病気、けがの場合は、内科、歯科、小学校は、近くの医療機関で対応していると思うが、学校としてはどんな状況か。



（教育長） 医院のほうに学校の車を使って搬送する、そういう部分が基本になっている。緊急対応の場合には、救急車を呼んでの受診というか、学校ごとにマニュアルを作成し、対応している状況にある。

まとめ 買い物弱者対策は、近くに店舗等がない者にとっては喫緊の課題である。また、診療所の受診も高齢者にとっては避けて通ることはできない。具体的な支援に取り組んでいくことを要望する。

一般質問

みなさんの生活にかかわる大切な内容について質問しました。

中村 「うから館の方向性検討は、 利用者・町民の声を先に聞かないのか」 町長 「自分たちが先に検討し、皆さんに説明していく案件」

(1) 新学習指導要領に対応した南関町のICT環境整備

計画のスピードについて

Q これからの時代は、コンピューター、AI、ロボットなどを使いこなせる人材が求められている。これまでのコンピューター室での科目としてではなく、各教室に常設で全教科をパソコン1人1台化での授業へ。OECDの中でも日本の教育ICT化は最下位レベル、文科省は予算をたくさん取ってどんどん進めるようにと意思表示している。子供達は順応性が高く環境整えれば使いこなす、全国的にも課題は、指導者側の問題である。文科省の推奨レベルより早いスピードで南関町の子供達のために、環境を整えてあげる意欲を問う。



A (教育長) 小学校は平成32年度、中学校は平成33年度の文科省推奨レベルの計画である。ICTの支援員を4校に1人配置は、これからの検討事項である。

Q 大牟田・明治小学校での外国語教育ロボットの導入のように、南関町もICTやプログラミング教育用ロボット導入により子供たちの教育意欲を高めることをする考えを問う。

A (教育長) かなりの予算が必要なので、補助金や民間企業の支援事業など情報収集のアンテナを高くしながら取り組んでいく。

(2) うから館利用者の声について



Q 方向性を役場庁舎内で検討会議が開かれているが、なぜ事前に、検討期間中に、利用者・町民の声を聞き、議論に取り入れないのか問う。

A (町長) 赤字営業状況、温泉施設の老朽化による修繕や工事費の負担が今後に続き、多額の財政負担が見込まれる。平成30年度を持って温泉施設の廃止も含め、指定管理は行わないことで検討している。利用者の声は必要に応じてアンケートなど、町民の皆様に対して理解が得られるよう十分な説明および対応を図っていくのは当然のことである。

Q 早い時点で町民の方達を巻き込んで一緒に議論していくスタイルの方が町民の方達には納得感が出てくると思う。

A (町長) 町民の皆さん

意見を集めて進んでいく事業と、今の現状で財政に大きな悪影響を与える案件では違い、しっかりと把握した結果を町民の皆さんへお知らせし、これからの道を探る事が必要。

(3) 一人暮らし高齢者への支援について

Q 近郊に親族がおられ、どのくらいの周期で訪問・会話をされているか、関係人口的調査はあるか？



A (福祉課長) この夏に民生員の方達の一斉訪問調査予定があるので、盛り込んで頂くようお願いする。

Q 近郊に親族がおられない、または訪問が無い一人住まいの高齢者の方達が調査で分かったら、見守りネットワーク事業や緊急時の連絡装置、宅配サービス、元気づくりシステムなどへの参加有無も調査し、町の支援活動が、必要な人にちゃんと届いているか調べて欲しい。また地域で支え合う仕組みづくりが求まれている中、健康づくりシステムで全国的モデルになる展開ある実績を元に、他のテーマでモデル地域づくりを行政リードで進めていく意欲を問う。

A (町長) 皆さま方からの知恵を頂きながら、いい案があれば試行的なことから始めていく意義がある。

(4) 「シェアリングエコノミー」「関係人口」など最新動向への取り組みに対して

Q 新しい時代の流れを取り組む、モデル事業自治体が地方創生の中で求められている。こうした新しい時代の流れを掴む担当者を各課に置く提案をしたい。庁舎内に活気が出て、町民も町全体が活気づく。

A (町長) なるべく多くの職員がまちづくりを考え、それぞれの課、話し合いができる組織・場があればと考えている。



広報常任委員会委員長
文教厚生常任委員

中村正雄

議会日誌

■5~7月

- ・5月1日(火) 広報常任委員会
- ・5月8日(火) 広報常任委員会
- ・5月10日(木) 文教厚生常任委員会
- ・5月16日(水) 広報常任委員会
- ・5月17日(木) 総務産業常任委員会
- ・5月23日(水) 全員協議会
- ・6月12日(火)~14日(木) 6月定例議会
- ・6月26日(火) 文教厚生常任委員会
- ・7月9日(水) 議長・委員長研修会
- ・7月10日(火) 広報常任委員会
- ・7月12日(木) 総務産業常任委員会
- ・7月17日(火) 文教厚生常任委員会、広報常任委員会
- ・7月19日(木) 全員協議会
- ・7月24日(火) 広報常任委員会
- ・7月26日(木) 総務産業常任委員会

■年間スケジュール

定例議会 4回……3月・6月・9月・12月
閉会中は、懸案事項を各常任委員会で調査研究します。他に全員協議会や臨時議会、陳情、請願に対する審査・視察・研修などを行います。

議会傍聴しませんか



6月定例議会の傍聴人数は、6/12:6人、6/13:13名、6/14:4人。
のべ23人と増えました。

次回は、9月定例議会

- ・どなたでも傍聴できます。
- ・先着30人
- ・議会入口の傍聴人受付簿に、住所・氏名・年齢を記入します。

お問合せ先：議会事務局 ☎57-8508

あなたも登場しませんか

■『生の声を聞くコーナー』登場者募集

- ・5名以上のグループ
- ・希望の対談テーマと共にご連絡ください

■『あなたが考える、南関町の未来コーナー』

- ・南関町在住で、18才未満の方
- ・400文字程度の文章

議会だよりのデザイン・内容のご意見も連絡下さい。

お問合せ・申込先：広報常任委員会 各委員へ
または委員長(なかむら)☎090-5394-0233へ

調査報告 総務産業常任委員会

委員長 橋永芳政

1. 調査事件 ①「バンブーフロンティア工場視察」

②「種鶏場視察」

2. 期 日 平成30年5月17日

3. 議題及び経過

①バンブーフロンティア工場の操業が遅れているので調査の必要があり山田社長の説明を聞いた。まだ試作に手を付けたばかりで本格操業は2~3ヶ月かかるとのことだった。竣工式から製品の生産販売まで6ヶ月、信頼のできる製品の完成と社の繁栄を祈念し調査を終えた。

②平成28年の坪井種鶏場の高病原性インフルエンザの予期せぬ被害を受け9万3,000羽を殺処分し埋設、迅速な対応で被害拡大が阻止され、最少に終わりました、委員会はその殺処分の埋設の後がどうなっているか調査をやりました。坪井種鶏場の専務の説明を聞いた、臭いはしてなく気にならなかった、種鶏場のそばの池は渡り鳥が来ないように網で覆い対策、鶏糞の臭いを聞いたが鶏舎の中で乾燥させ集めているので臭気対策は十分に気を付けている、他の鶏舎からの搬入はやっていない。周りの施設うすま苑、ゴルフ場、イーザイ化成などの臭気の迷惑かけないようと専務にお願いし終えた。



告
当地は、家畜伝染病予防法第24条に基づき下記のとおり発令を禁じます。
【埋却物】 離、離卵、飼料、飼糞
【病名】 高病原性鳥インフルエンザ
【発令禁止期間】 平成28年12月28日から
平成31年12月27日まで
平成28年12月28日
熊本県

なんかん大蛇山振興会「八剣会」

ぎおんさんは、昭和初期に谷、丹保地区の祭りとして始まりましたが、その後、南関町商工会南関支部に移管され、疫病退散、五穀豊穫、商売繁盛を祈念する祭りとなりました。南関地域の祭りとして賑わっていましたが、大蛇山製作者の高齢化と後継者不足により祭り存続が懸念されていた平成12年に現会長小出祐二氏ら有志が立ち上がり、大蛇山製作と文化の継承を目的として、大蛇山振興会は結成されました。それから19年目。20~30代の若者を中心にして、昔からの手法を受け継ぎながら、毎年数ヶ月をかけて手作業で、和紙、竹、藁などを組み合わせて作成されています。今回は、熱い思いで伝統を受け継ぎながら祭りを支える方達にインタビューしました。



- 大牟田は大牟田駅に飾ってあるので、新庁舎が出来たら、いつでも見られるよう大蛇を飾ってほしい。

「他に要望やこんなになつたらいいなあ
と思う点をお聞かせ下さい。」

- 会員募集中。祭り好きの18歳以上の男女で、国籍問わず、町外でも歓迎です。



- 町民の皆さんに、南関町全体の祭りとして関心を持ってもらい、多くの人に参加してもらいたい。
- 引き手も少なくなってきて寂しい。自分たちは昔から引くのが当たり前と思っていたが、誰でも参加できますよと、宣伝も必要ですね。
- この号が発行されるのは、祭りの後だけ来年でもいいので、祭りに来てください。



「生の声を聴く」を終えて…

人口減少・少子高齢化が進む中、どのように伝統を守っていくか、大きな課題となっています。南関町の大蛇山は「大蛇山振興会」の皆さんにより、伝統を引き継いでいかれています。今回、この強い想いを持った人たちとの対話の中から、いろいろと考えさせられました。

- 「政教分離」の考え方からの脱皮…元々神社の祭りとして始まったものの、「観光」、「伝統継承」という意味で、全国的に行政が関わって、応援している祭りが多くなってきました。「ぎおんさん」も出来る部分から応援して、町全体としての盛上げ策に取り組んでいいのではと思いました。
- 一小校区の祭りではなく、南関町全体の祭りとしての関心を…「ぎおんさん」だけでなく、町内には伝統を引き継がれている祭りがあります。こうした祭りもその地区の人たちだけでなく、町全員で南関町の祭りとして、関心を持ち、応援・参加して行けるようになればと思いました。

広報常任委員会

生の声を聴く

大蛇山振興会 & 広報委員

「大蛇山をどんな気持ちで 作られていますか?」

- 伝統の継承。先代の人たちの気持ちを引き継いでいきたい。
- いまでは、毎年の生きがいになっています。恋人みたいなものです。
- 伝統を守って行かんと、町は元気にならん。町が元気になってほしいのです。



「大蛇山を作れるようになるには、 何年くらいかかるのですか?」

- 何が一人前か分からん。みんなで作っていくので。
- その年の責任者が、こうしていこうと決めるので、それにそってみんなが一緒になる。
- 会長とかベテラン組が、一緒に作りながら、怒られながら手直しをたっぷりされながらね(笑)。
- 基本的には、真似して覚えろ、見て覚えろです。職人の世界です。



「大牟田の大蛇山より迫力があると 言われますが、どうですか?」

- 昔から作り方が違う。
- やっぱ大蛇の顔です。口が波打っている所とか、ひげですね。
- マニュアルがあるわけではないのに、毎年仕上ったのを見ると、南関の大蛇はいいなあと思います。



前号から新しく始まったコーナーです。

広報委員会では、町民の皆さんからのさまざまな生の声を聴き、議員活動の活性化と住んでよかった町づくりの一助になればと考えています。

このコーナーは、登場された方達の声であり、これ以外にもいろんなご意見があると捉えています。「こんなこともあるよ」「こうしたことも要望したい」など、「読んで頂いた方達の生の声」が議会にたくさん届くことを期待して、このコーナーを始めました。



- 伝統は口頭で、気持ちで伝えてます。そして作りながら引き継いでいきます。

「大蛇山振興会の会員数は」



- 60から70名。
- 大蛇山制作は10数名で作っています。
- 自主参加です。その年の頭(かしら)がメインとなって、手伝える人が来てくれます。
- 担当みたいな分け方もしていなく、頭(かしら)の号令のもとで動きます。
- 每年3月に竹伐りし、4月から7月までの制作です。祭りが終われば崩してしまう。材料から年をまたがないで、毎年作ります。

「行政に対する要望は」



- 南関町の祭りとして、一緒に盛上げて欲しい。
- 町がシャトルバスを出していただいたら、遠くの方達も参加していただけるのではないか。
- 町外に対しても、町のホームページやポスター・チラシで宣伝することで、人が多くなる。南関町の宣伝にもなる。



防災警報について再度考えてみましょう



7月の西日本豪雨は、気象庁が台風以外では異例の緊急会見を開き厳重な警戒を呼びかけていました。しかし、結果として平成最悪の事態となりました。高齢者の死亡が目立つことから、自力非難が困難だったり、自治体の情報が十分伝わらなかったりして逃げ遅れた可能性が指摘されています。

一方で、自宅などは大きな被害を受けながらも、早期に適切な判断をして難を逃れた人たちも少なくありませんでした。

情報とは、「発信する側と受け手側が同じレベルになっていないと情報が活きない」という原則があります。被害者を出さないために、今一度、情報に対する双方の見直しが必要と考えます。

7月6日（金）の災害対策状況を見てみましょう。

9時00分 災害対策本部設置

13時00分 避難所開設

17時15分 避難勧告発令（前原笛鹿、楮原、萩の谷、福山、北の辺田西、大西、井出、次郎丸、大場地区）

20時45分 土砂災害警戒情報発表



※7月6日の避難者数

避難場所	人数
南関町役場	7
ふれあい広場	23
交流センター	7
南町民センター	24
B & G 海洋センター	17
合計	78

危険度	避難情報の種類と対応	
	避難指示（緊急）	避難勧告
高	●まだ避難が済んでいない場合は、ただちに避難する。 ●外出することが危険な状況で屋内に残っている場合は、屋内で安全確保をする。（水害・土砂災害の場合：建物と斜面とは反対側の2階以上の部屋へ移動する。）	●一刻も早く避難する。
低	●地下空間にいる場合は、速やかに安全な場所へ避難する。	●地下空間にいる場合は、速やかに安全な場所へ避難する。
	●避難に時間を要する方（ご高齢の方等）がいる家庭、あるいは危険な地域に住んでいる方は、避難を開始する。	●気象情報に注意を払い、いつでも避難できるよう準備をする。
	●避難が必要と判断する場合は、避難を開始する。	●避難が必要と判断する場合は、避難を開始する。

避難勧告が発令されましたが、避難対象戸数275戸に対して避難者数は78名でした。幸い、人的被害が無かったからよかったようなものの極めて低い避難率ではないでしょうか。

多くの災害の中で、「まさかこの場所が」、「あの時避難していればよかった」等々、被害に遭われた方の後悔を聞くことがあります。まさかに備えて、「自分の所は大丈夫」と思わずには早めの避難を心がけましょう。また、発信する側も伝え方にもっと考慮すべき点はなかったか、しっかり検証しておくべきでしょう。

「避難準備」と「避難勧告」「避難指示」の違いが理解できていない人がまだ多いです（避難指示は、避難勧告よりも状況が悪化したり、人的被害の危険性が高まった状況の場合に発令される）。これからも台風などの災害には皆さん注意が必要です。また各家庭に配布されているハザードマップを今一度確認しましょう。



7月9日（月）南関第二小学校五年生が田植えを行いました。田植えを経験した子どもが少なく、保護者の方たちの指導の中、初めはうまくできませんでしたが、時間とともにうまく植えることができました。全員泥だらけになり、楽しい時間を過ごしました。昔は、当たり前の田植えの風景でしたが、今は体験でしか見ることはなくなりました。秋の餅つきが楽しみです。 （西田）



□ 発行責任者

議長 酒見 喬

□ 編集(広報常任委員会)

委員長 中村 正雄

副委員長 西田 恵介

委員 北原 浩一郎

委員 鶴地 仁